

図書館だより

埼玉県立図書館

13号



(秩父地方県民センター提供)

十三塚地蔵 (秩父市小鹿坂峠)

秩父観音霊場二十三番松風山音楽寺から小鹿坂峠の塚上、武甲山と秩父市街を見下ろす地にあり、近代再建立したとみられ、素朴な人びとの心がしのばれる。

「音楽寺縁起」によれば、

天暦三年、大和初瀬の徳道上人外聖者十三人が百番観音の霊地を求め、信州善光寺に集まり花山法皇所持の仏舍利の錦袋を空に投げ、その落ちた地へ堂宇を建立することとした。

一行は錦袋の飛去った方向、遙か秩父の里を訪れると不思議に山の峰から妙えなる音楽が聞こえ聖者を導いたという。峰の松には彼の錦袋が掛かり金色の光を輝かしていたので当所へ一字を建て松風山音楽寺と号した。

十三塚はこの聖者を祀った塚である、と。

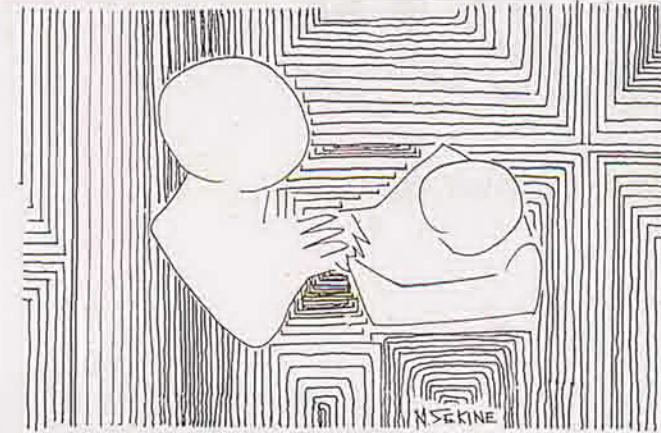
日下部朝一郎著

「秩父路の石仏」より



自然の中に素材を求めて

高田 律子



童話のようなものを書き始めて、三年たちました。今までに書いた作品は全部で七編、どれも原稿十枚、二十枚ほどの短いものばかりです。三才で終戦を迎えた私の幼年時代には、今のようにはすばらしい絵本が、ほとんど有りませんでした。

私は毎日、かくれんぼや石けりをして、夕暮まで遊んで、晩御飯を食べると、すぐに眠ってしまうような生活をしていました。眠る時に、母が枕元で、「桃太郎」や「花咲かじい」のような昔話を聞かせてくれたのを少し覚えているだけです。学生時代も、本を読む事より、奥秩父の山々を歩き回ったりする方が好きでした。文章を書く事など、あまり興味がなく、作文の時間も、特にもしろいと思った事は有りませんでした。

こんな私が、どうして創作にまで、手を出すようになったかと言うと、それは、自分の子供達に、何かよい本はと、さがしては読み聞かせをしているうちに、母親の私が、すっか

り、子供の本に魅せられてしまったからです。「こんなにおもしろい絵本が有ったのか。」と、本当に驚きでした。「自分も子供の頃に、こんな本に出合っていたらなあ。」と、何度思った事でしょう。子供の成長と共に、本もさまざまに変わり、今では読み聞かせをする事は無くなってしまいました。私と、子供の本とは断ち離れものとなって、ついには、お話を聞き出したという訳です。大変遅い目覚めでしたが、子育てによって、子供の本の楽しさを知る事ができ、これは私にとって、大きな収穫でした。

さて、実際に、お話を聞き出してみると、自分自身の体験が貧弱で、特に打ち込んだものを持たない私は、すぐに種切れになってしまいます。だから、作品を書き続けるためには、自分で、何かを見つけ出して行かなければなりません。そこで私は、最も身近にある秩父の自然の中に、その素材を見出そうと考えました。

私は野山を散策するのが大好きで

す。特に早春から芽吹の頃には、セツブンソウに始まって、カタクリ、アズマイチゲ、ニリンソウと、次々にスプリング・エフェメラル(春の生物、編集者注 spring ephemera)の群落が見られ、心の落ち着く暇がありません。家事一切を放り出して、友人と連れ立って出掛け、雑木林に足を踏み入れると、とても気持ちが素直になって、今まで気づかなかった色々なものが、見えて来たり、聞こえて来たりする様に思われます。又、晩秋の奥秩父で、落葉をガサゴソと踏みながら、谷川ぞいを歩いていると、テントウムシの幾万と飛び交う群れに出合ったりして、そのふしぎさに目を見張る事があります。

私は自分、この自然にさまざまな事を教えてもらおうと思っています。気に入った素材が見つかった、作品を書き出してみても、思うように筆が進まない時には、「何で、こんな事に手を出してしまったんだろう。本を読むだけにしておけばよかったのに。」と、しばしば考えてしまいます。そして、作品がやっと仕上がって、同人誌の編集者に、それを提出してしまおうと、ホッとすると同時に気が抜けてしまったり、「まだまだ推敲が不十分だったのではないか。」

県内図書館めぐり

川口市立図書館



本市に四つの図書館が整備されてから初めて、昨年度(五十六年度)の年間実績が「望ましい基準」に示される貸出サービスの水準(個人貸出冊数が人口の二倍。利用登録者数が人口の十五%)を超えるにいたり、やっと図書館の存在感がでてきたところである。

本市の四つの図書館は、複数並列館方式をもってたてられているが、これは単に奉仕対象地域を区分する地域性を求めたハードウェアではなく、「図書館システム」という組織の構成単位として機能するハードウェアでもある。

さて、このように複数並列館方式をもって機能する図書館の日常業務はどうなっているのか。

一つには貸出とレファレンスを中心とした窓口業務、整理業務等の各館に共通した業務。二つには「中央図

書館」をもたない図書館システムから各館が個別に分担する業務があり二つの業務から構成される業務を各館が日常業務としている。

館別で分担する業務の主なものを紹介すると。

- ① 中央Ⅱ移動図書館。郷土資料室。電算センター。資料貸借配本メール。分室。
 - ② 前川Ⅱ障害者奉仕。合同集会事業。AVL。
 - ③ 新郷Ⅱ地場産業資料室。
 - ④ 横曽根Ⅱ共同書庫(デボジットライブラリー)。マイクロフィルム資料室。
- また、図書館システムを機能させる四つの図書館と移動図書館を含めるネットワークを確立させていく方法として、オンライン・リアルタイム処理を中心とする電算システムと四館が所属する資料の相互貸借・相互利用を推進する配本メールカーの巡回制度をとりいれている。
- これらが本市の特色といえる。
- 各館の案内
- ① 中央 幸町一六八十八
 - ② 前川 前川一三三十八
 - ③ 新郷 東本郷二六八八
 - ④ 横曽根 仲町十一十六



と、不安になったりします。

作品が一通り、終りまでたどり着くと、私はいつも、家族に読んで聞かせ、批評を受けます。最初は気恥ずかしくて、いやでしたが、歯に衣を着せない彼等の批評は、とても参考になるので、耐える事にしました。作品を一応完成させるまでには、たいてい四、五回は推敲します。

一作ごとに、前の作品よりは、少しでも増しなものをと思っています。が、とても難しいことです。児童文学の講座を受けたりして、勉強不足をカバーしていますが、学んでみると、あまりにも本を読んでいる自分分には、手抜きばかりしている主婦の私ですが、家事は付いて回るので、自分勝手な事にばかり没頭しているわけ

筆者紹介

昭和十七年生、県立秩父高校卒。
「秩父児童文学の会」に所属
「82ミセス童話大賞」(文化学園・文化出版局主催)奨励賞受賞。
現在秩父市立図書館において、ボランティアで、「おはなし」を語っている。

子供達に、「お母さん、一つでいいから、宮沢賢治ぐらゐの作品を書いてね。」とか、

「熊のプーさんみたいなものでもいいよ。」等と、夢にも実現できない事を要求され、打ちのめされたような気持ちにさせられます。

けれど、いつかは、自分なりに納得のいく作品を一編でいいから、生み出したいものだ、いつも思っています。

埼玉の郷土の作家と作品

▽2△

今回と次号で、県外出身で県内在住の作家について紹介します。今回は、文芸作家(劇作、文芸評論を含む)にとどめましたが、この中には、三人の芥川賞受賞作家も含まれています。

○文芸(小説) ①は文学賞受賞者
相沢武夫 (所沢市) ②
「戌辰替女唄」「朱の財布」
石塚嘉久三 (浦和市) 芥川賞
「纏足の唄」「花の海」
伊東 信 (上福岡市) ③
「南の島に鐘は鳴る」「地獄鉤」
稲垣史生 (川越市) ④
「京包線にて」「江戸考証事典」
岩崎芳秋 (所沢市) ⑤
「飾れない勲章」「鳥人の歌」



城外・夜ざくらと雪

大谷幸太郎 (浦和市) ⑥
「殺意の演奏」「虚妄の残影」
大西赤人 (与野市)
「君、見よ、双眼の色」
小田嶺夫 (新座市) 芥川賞
「城外」「河をわたる女」
笠原 卓 (所沢市)
「闇からの遺産」「殺意の葬列」
桂 英澄 (浦和市)
「古都の女」「大宰治と津軽路」
加堂秀三 (嵐山町) ⑦
「青銅物語」「町の底」「花筏」
金 石範 (川口市) 芥川賞候補
「万徳幽霊奇譚」「在日の思想」
草川 俊 (大宮市)
「日本の飲食考」「野菜博物誌」
寒川光太郎 (所沢市) 芥川賞
「密猟者」「サガレン風土記」
高原弘吉 (春日部市) ⑧
「あるスカートの死」
武田武彦 (日高町)
「メランコリックな犯罪」
土岐雄三 (浦和市)
「家庭株式会社」「車のない街」

中谷孝雄 (新座市) 芸術選奨
「招魂の賦」「春の絵巻」
中町 信 (岩槻市)
「殺戮の証明」「殺された女」
中村昌義 (八潮市)
「静かな日」「陸橋からの眺め」
南坊義道 (和光市)
「現代創作入門」「夜の幽閉者」
野口赫宙 (日高町)
「陶と剣」「ガン病棟」
平林英子 (新座市) ⑨
「夜明けの嵐」「青空の人たち」
深沢七郎 (菟浦町) ⑩
「盆栽老人とその周辺」
真継伸彦 (上福岡市) ⑪
「鮫」「光る声」「無明」
森 万紀子 (三郷市) 芥川賞候補
「距離」「黄色い娼婦」「密約」
○ノンフィクション(非小説)
石井代蔵 (草加市)
「巨人の肖像」「相撲騎人列伝」
石川 清 (川口市)
「俺が名もない青年でも」
小沢遼子 (浦和市)
「よきもの連合太平洋記」
草薙 実 (所沢市)
「限りある日を愛に生きて」
関根二郎 (蔵市)
「三〇代、独立への戦略」

前原大輔 (春日部市)
「理由なき抵抗」「ヤング心理学」
○劇作
阿坂卯一郎 (浦和市)
「黒東記」「風変わりな景色」
池 俊行 (坂戸市)
「流離の女」「古都を訪ねて」
植草圭之助 (日高町)
「冬の花悠子」「片隅の生活」
高橋玄洋 (所沢市) ⑫
「風待ちの女」「人工樹林」
二宮千尋 (久喜市)
「月夜ゆ」「御巡幸」
原 麻紀夫 (狭山市)
「会津おとこ賦」「さざり刑事」
○文芸評論
大西巨人 (与野市)
「神聖喜劇」(一・五)
菅 孝行 (和光市) ⑬
「劇的空間のかたへ」



東西南北

文学散歩の募集

「田舎教師とその周辺」
名作の舞台となった県北の地を訪ねて、住時をしのび、作者の心情に近づいて作品の理解を深める。
更に作者への親しみと、よき時代への想いを馳せる。

- 日時 10月27日(水)9時~17時
- 場所 水城公園・花袋旧居・尾曳神社・建福寺・田舎教師墓など
(田舎教師研究会理事、宮内芳子氏とともにバスにて)
- 定員 100人(先着)
- 費用 三五〇〇円
- 集合場所 春日部駅西口及び岩槻駅西口前8時45分
- 途中乗車可能地 幸手駅・加須駅・東大宮駅西口・鴻巣駅東口・行田市駅付近
- 申し込み 往復はがきに、住所、氏名・電話番号・乗車場所を明記し、10月9日(日)必着までに県立久喜図書館文学散歩係(〒366 久喜市下早見85)まで
- くわしくは、同図書館(0488021)2659又は233111に

第4回本を読む県民のつどい

県民の皆さんに、本に親しみ、図書館活動に対する理解を深めていただくよう「本を読む県民のつどい」を開きます。多数の皆さんの参加をお待ちしています。

- 日時 11月9日(火) 12時30分~16時
- 内容 読書感想文入選者の表彰、作品朗読
- 品朗読
- 記念講演
「これから期待される人間像」
講師 藤原てい氏
会場 東松山市中央公民館
その他 入場は無料です。来場者には読書感想文集を贈呈します。
- 問合せは
埼玉県立川越図書館「本を読む県民のつどい係」(0492・44・5603)まで
- 県立図書館の特別休館のお知らせ
秋季特別整理のため、次の期間休館となります。
浦和・熊谷図書館
9月27日(月)~10月6日(木)
川越・久喜図書館
10月14日(木)~10月23日(土)
ただし、移動図書館、一般事務は行っています。

10月の催し物

主な

- 県立浦和図書館
特別資料展示会
日時 11月6日(日)~11日(木)
内容 11月8日(日)は休み
ただし8日(日)は休み
「資料を通して女性問題を考える」
新着フィルム映画会(子供向)
日時 10月9日(日)13時30分
内容 「かあちゃんの家」「はなはれこぞうさま」「ゆかいな仲間たち」子ども動物自然公園
読書週間映画会
日時 10月28日(木)14時
内容 「ちひろの四季」「アンデルセンの世界」他
■県立熊谷図書館
著者を囲む会
日時 10月26日(火)13時30分
内容 文芸講演会
演題 「人生の折り返し点」
講師 田中澄江氏
会場 秩父市立中央公民館
名作映画鑑賞会
日時 10月23日(日)13時30分
内容 「あ、野麦峠」山本薩夫監督
2時間34分 製作新日本映画
■県立久喜図書館
名画鑑賞会
日時 10月30日(土)13時30分
内容 「天平の薨一」部
日時 11月27日(土)13時30分
内容 「天平の薨二」部
日時 11月14日(日)13時30分~15時
内容 「ふるさと秋」・「オズのまほう使い」
レコード・コンサート
日時 10月1日(金)12時15分
内容 「ジャズ特集」

読書グループ紹介

笑読書会



昔は中山道の宿場町でもあった桶川市ですが、今では周辺に団地もいくつか出来て、さわやかな主婦がふえてきました。移動図書館の貸出場所も二十五ヶ所を数え、主婦達のボランティア活動が活発に行われています。

昭和五十四年一月から二月にかけて行われた「むぎぶえ文学講座」終了後、読書会のモデルとして、会員の熱意と市教育委員会からの積極的な働きかけもあって、笑読書会が昭和五十四年の五月に誕生しました。

結成されてまだ二年一寸しかありませんが、毎月一回例会を開き、課題作品一篇を読んでもくことにしました。有吉佐和子の「助左衛門四代記」から始めて、去年春から、芥川賞作家に取組み石川達三の「蒼氓」から始まって、三田誠広の「僕は何」まで熱心に行っていました。司会者一名、書記一名を、会員十三名が交代で受持ち、図書館にある様々な

資料を利用して、読書会を進めて行きます。当日は作品の読後感発表に止まらず、関連するところ、人生観、社会観、果ては男性論、育児論にまで及ぶ、和気藹々のうちに、作品の主題が提起する問題点を、みんなでおつけ合い、何かを吸収してきます。

又、年一回は、文学散歩をやりまします。一昨年は前橋に、萩原朝太郎を偲び、去年は磯部小諸に新島襄や大手拓治、島崎藤村などの跡を訪れ、感銘を深めてきました。更に、この三年間に於ける最大の催しは、読売ブッククラブと県立のかたがたのお骨折によって、大原富枝氏に来ていただき、公民館で、講演会を開いたことでした。多くの聴衆に、大変喜んでいただけたことは忘れられません。芥川賞作家の輪読も、もうじき一段落する予定なので、来年三月迄には、会員各自が、そのうち一作家を選んで、論文や出さうじやないかと張り切っております。

最後に、私達の笑読書会の他にも、



山下正夫

もみじ読書会、花みずき読書会、西三丁目読書会、梅読書会、殿山団地読書会、子どもの本を読む会、アメリカ文学、源氏物語を原文で読む会、大宰治研究会、松尾芭蕉の会などがあり、積極的に活動されています。そして、笑読書会は、それらの読書会の幹事として張り切って活躍していると云うことです。

子どもの本を読む会



北浦和公園に近い浦和市常盤公民館で、月二回、子どもの本の読書会がつけられています。

豊かな本の世界を子どもたちにひきあわせたい、そのためには大人がまず読まなくてはと、生垣俊子さんたち幼稚園児の母親が子どもの本を読みはじめたのは六年前のことでした。日本の昔話から、絵本、日本や外国の児童文学作品、科学読物、子どもの使っている教科書、漫画、など、まわりもちの当番がしらべて来て報告し会員が意見を出しあったり、時には講師をかこんで勉強したりしてきました。



生垣俊子 (世話人)

三年目には常盤公民館に「ともだち文庫」が誕生、週一回の文庫の貸出しや読みかきせに、また併設された「ともだち広場」でお話や紙芝居、工作や遊びの子どもとのふれあいに三十名足らずの全員は大へん忙しくなりました。また、離れた地域で家庭文庫を開いている人たちが読書会に参加してきて話題もひろがりました。県立図書館には、テキストの本の貸出しでお世話になり、また、子どもの本に関わる講演会や講座を図書館が開催する度に誘いあって参加させていただいております。

幼稚園児だった子どもたちも、昔大が親に追いつくほどになり、やがては子どもの本を卒業していきそうです。今では母親たち自身が子ども本の魅力にとりつかれ、読むほどに語りあうほどに、もっともっと読みたい本が見えてきて尽きることがない感じがします。

九月には、打木村治先生の「天の園」「大地の園」全一〇冊にとりくむ予定です。(池田記)

本のひろば

(レオナルド・ダ・ヴィンチ)

出版年 「所蔵館名」の順です。
手記
解剖手稿(全3巻・別冊1) 岩波書店 昭57 (久)
鳥の飛翔に関する手稿 岩波書店 昭54 (久)
レオナルド・ダ・ヴィンチの手記(上下) 杉浦明平訳 岩波書店(岩波文庫) 昭29・33 (浦・熊・川・久)

画集・素描集・図集
レオナルド 講談社(世界の素描1) 昭52 (浦・久)
レオナルド 集英社(リッツォーリ版世界美術全集3) 昭49 (川)
レオナルド・ダ・ヴィンチ 新潮社(新潮美術文庫4) 昭49 (川)
レオナルド・ダ・ヴィンチ 中央公



『鳥の飛翔に関する手稿』

論社(世界の名画別巻) 昭49 (浦)
レオナルド・ダ・ヴィンチ 美術出版社(世界の巨匠シリーズ) 昭50 (熊・久)
レオナルド・ダ・ヴィンチ 平凡社(ファブリ世界名画集4) 昭46 (浦・熊)
レオナルド・ダ・ヴィンチ解剖図集 岩波書店 昭46 (浦・熊)
レオナルド・ダ・ヴィンチの素描 岩波書店 昭57 (久)
レオナルド・ダ・ヴィンチの素描 岩崎美術社(双書版画と素描2) 昭47 (川)
伝記・研究書
技術家・発明家レオナルド・ダ・ヴィンチ F・M・フェルトハウス 山崎俊雄、国分義司訳 岩崎美術社 昭49 (川)
知られざるレオナルド R・レティ編 小野健一ほか訳 岩波書店 昭50 (浦・久)
ダ・ヴィンチの芸術と科学 K・キール 竹内均訳 東京図書(科学・発見のバイオニア) 昭53 (川・久)
ダ・ヴィンチの生涯 C・ニューコム 南清訳 二見書房 昭49 (熊)
モナ・リザ 中山公男ほか 朝日ソノラマ 昭49 (浦・熊)
モナ・リザ 中山公男 美術出版社 昭49 (久)
モナ・リザ R・ユイグ 高階秀爾訳 美術出版社(巨匠の名画) 昭49 (浦・久)
モナ・リザの秘密 加茂儀一 日本経済新聞社 昭49 (浦・川・久)
モナ・リザ論考 下村寅太郎 岩波書店 昭49 (浦・川)
リオナルド・ダ・ヴィンチ K・ヤスバース 藤田赤三訳 理想社(ヤスバース選集IV) 昭33 (浦・熊・川)
ルネサンスの芸術家 下村寅太郎 筑摩書房 昭44 (浦)
レオナルド 木村莊八 日進堂 大12 (熊)
レオナルド 下村寅太郎 南窓社 昭52 (川・久)
レオナルド研究 児島喜久雄 岩波書店 昭27 (浦)
レオナルド研究 児島喜久雄 座右宝刊行会 昭48 (熊)
レオナルド最後の晩餐 L・H・ハインライヒ 生田國訳 みすず書房(アート・イン・コンテクスト3) 昭49 (浦・川)
レオナルド・ダ・ヴィンチ 小野健一 三省堂 昭51 (川)
レオナルド・ダ・ヴィンチ K・クラーウ 加茂儀一訳 法政大学出版

局(叢書・ウニベルシタス) 昭49

〔川〕

レオナルド・ダ・ヴィンチ K・ク
ラーク 第2版 丸山修吉、大河内
賢治訳 法政大学出版局(叢書・ウ
ニベルシタス) 昭56 〔浦・川・
久〕

レオナルド・ダ・ヴィンチ 澤木四
方吉 東光閣書店 大14 〔浦〕

レオナルド・ダ・ヴィンチ 下村寅
太郎 勁草書房(思想学説全書)
昭36 〔浦・熊〕

レオナルド・ダ・ヴィンチ 杉浦明
平編訳 平凡社(世界を創った人び
と11) 昭53 〔熊・久〕

レオナルド・ダ・ヴィンチ 田中英
道 新潮社 昭53 〔川・久〕

レオナルド・ダ・ヴィンチ 西村貞
久



『解剖手稿』

レオナルド・ダ・ヴィンチ小伝 I
B・ハート 花田圭介、今井道夫訳
法政大学出版局(教養選書36) 昭
52 〔浦・久〕

レオナルド・ダ・ヴィンチ伝 G・
ヴァザリー 堀分一弘訳 岩崎美術
社 昭49 〔川〕

レオナルド・ダ・ヴィンチの方法
P・ヴァレリー 山田九朗訳 岩波
書店(岩波文庫) 昭52 〔浦・熊
・川・久〕

レオナルド・ダ・ヴィンチ博物館
青木国夫編 講談社(世界の博物館
15) 昭54 〔浦・熊・久〕

レオナルド・ダ・ヴィンチ論 P・
ヴァレリー 佐藤正彰ほか訳 筑摩
書房(筑摩叢書22) 昭50 〔浦・
久〕

おたすねください

逃げ水とは?

問 逃げ水という現象はどのよ
うな時に起きるのですか?

答 蜃気楼現象の一種。晩春か
初夏にかけて、よく晴れた日
に熱せられた道路のアスファ
ルト面を遠くから目を低くし
てみると、水たまりがあるよ
うに見えることがあるが、こ
れは地面付近の気層が著しく熱
せられて、空気の温度が、高
さとともに急激に減少してい

る時、斜め上方から下方へ進む
光は次第に水平方向に曲げられ、
さらに向きを変えて斜上方に進
むようになり、ちょうどある高
さに鏡があつて光を反射する場
合のようになる。その部分が異
い水たまりのように見えて、逃
げ水を形成する。逃げ水という
名は、ある所で見えていたもの
が、そこへ行くとなくて、さら
に前方に見えるというこの現
象の特長をよく表わしている。
武蔵野の逃げ水は、古来、歌
に言われるなどして知られてい

る。また、ナポレオンがエジプ
トに遠征したとき砂漠に現われ、
オアシスと見えたのは有名な
話で、この現象を数学者モンジ
ユ(Cezaire Monge 1746-18
18)が研究したので、モンジュ
の現象ともよばれる。ドイツで
は「砂漠のお化け」、ハンガリ
ー「デリバーブ」、アラビアへ
「セラブ」、中国では「地鏡」、
「水影」などとよばれている。
資料「気象の事典」 東京
堂出版 「世界大百科事典」
平凡社 ほか。

編集後記

浦和市内の笠原徳さんからうれ
しいたよりをいただきました。

まず前号「利根の渡しに心をう
ばわれたこと」表紙写真のカラ
ーの効果が思い、ありがたく
拝聴いたしました。

自然の中に素材を求めての作者、
高田さんは、秩父の山々に夢を追
う人、心の糧を自然から受けるこ
とが出来、一種のブルジョアで
あり、てんとう虫の群舞など極め
て興味ある話です。

埼玉の文学は文芸作家をとりあ
げました。五六〇万県民の中には、
立派な作家も沢山おるものです。
これらの再説をお進めします。

本の広場もこのたび、絵筆を
もって人間完成をとげた人ともい
われる、レオナルド・ダ・ヴィン
チの主な著作を紹介しました、か
の天才の片りんがうかがえればと
思います。